

第2回笛吹市中学校部活動地域移行検討委員会

議事報告

開催日時：令和6年3月5日（火）午後7時 開会

開催場所：笛吹市役所市民窓口館 3階 302・303会議室

出席者：笠野委員、猪股委員、清水委員、石井委員、古屋委員、村松委員、金子委員、
風間委員、須田委員、太田委員（教育部長）、

萩野アドバイザー、田鹿アドバイザー、望月教育長、

事務局：久保田学校教育課長、学務担当 日原指導主事、

萩原生涯学習課長、スポーツ推進担当 降矢課長補佐、海野、岩澤、

生涯学習担当 生原、角田、

欠席者：渡辺委員、高野委員、

傍聴人：なし

【進行：生涯学習課長】

1 開会

2 委員長あいさつ

検討委員会の委員が、部活動地域移行について内容をしっかり把握する必要がある。今日も資料が多く勉強するような形になるが、お願いしたい。

3 議事

(1) 報告事項について（資料：1-1、1-2）

【質問意見等】

（笠野委員長）

報告のあったアンケート結果は山梨県教育委員会が主体となって実施した結果を、笛吹市のものだけを抜粋し分析したという理解でよろしいか。

（事務局）

委員長の認識のとおり。

（笠野委員長）

アンケートを具体的にどのように実施したか把握しているか。チラシを生徒に持ち帰

らせて、家で読んでアンケートしたのか。学校の中で時間を割いて先生が説明をしてアンケートしたのかというようなところを教えていただければと思う。

（田鹿アドバイザー）

まず、先生方のアンケートに全種類のチラシを添付して、保護者や子どもたちがどんなものを読むのかを知った上で、子どもたちより先にアンケートに答えてもらった。

子どもたちには学校で時間をとってアンケートを実施し、回答前に必ずチラシを読んでから進めるようにした。また、担任の先生にチラシのどこを読むようになど子どもたちに促してもらいながら、質問があった場合には答えられる状況を作ってもらった。

（笠野委員長）

第1回の検討委員会で、周知が足りないという意見がいくつか出たが、今回このような形でしっかりと説明をしてアンケートに答えているということで、周知の部分は良いものになったのではないかと思います。

資料1-1の裏面で、運動部の状況は顧問を複数人配置することができず1人だけとなっている場合があるとあって、文化部は今年度の活動に支障はないとなっているが、教員の負担という面でも支障はないという理解でよろしいか。

（事務局）

文化部の活動で実際の教員の負担について把握していない。委員の校長先生に学校現場での状況を御発言いただきたいが、いかがか。

（清水委員）

春日居中学校の文化部は美術部と吹奏楽部の2つになる。美術部は土日の活動はなく、平日の放課後のみの活動で顧問は1人。

また、吹奏楽部は土日のいずれかで活動をしている。本校は非常に人数が少なく、顧問は吹奏楽部を主とする1人、他の部と掛け持ちが1人で配置している。教員の半数ぐらいは文化部も運動部も含めて、2つの部を掛け持っている状況。その中でラグビー部のような季節部に、他の部活動をもっている顧問を配置している。

吹奏楽部は学校外の活動も多い上に、生徒の引率で1人、楽器の運搬や準備で1人とそれぞれ顧問が出勤するので大変なところがある。支障がないかというところではない現状。

（村松委員）

資料の説明から笛吹市の状況は、あまり問題なく活動がされているという意味でよいのか。アンケート結果で、楽しみながらやりたいという人数が多いが、今行われている部活動の中で、指導者とか部員数とか関係なく活動ができているという意味でよろしいか。

問題なく活動できている状況にあるとするならば、笛吹市として地域移行はどこに注力していくものなのか。

(笠野委員長)

支障がないというのは私の理解では、人数が活動する上で支障がないというところまでのアンケート結果だと思っている。生徒自身が本当はもっと緩やかに楽しんでやりたいけど、厳しい競技の部活をしているというようなところまでは調査できてないと思っているが、事務局はいかがか。

(事務局)

委員長の認識のとおり。人数をベースに考えているので、休部になるとかそういう状況ではないというようなもの。

(村松委員)

少子化で部員が減少し、やりたい部活動がない状況があり、楽しくスポーツに触れ合う機会がなくなっている。また、教員の負担軽減が地域移行の一番の根本にある中で、今部活動ができている状況で、その後も楽しくやりたいという子どもたちをどのようにしていくのかを検討していくものなのか、その辺がわからない。

(笠野委員)

村松委員の御意見は、資料の1-1の表の一番下で、実際に5年間で132人生徒が減少し、常設の運動部に入っている生徒も129人減少していて、さらに部活動数が石和中と浅川中でそれぞれ1部ずつなくなっているところ。

この流れの中で他の部も今後少子化の側面から減っていくであろうと、部がなくなってしまうからでは遅いということで今の動きがある。

もう一つは、教員の負担もかなり大きくて、教員に過度な負担をかけながら行っている状況でいいのかということが前提にある。現在は何とかできているという状況を我々委員が理解する必要があると思っている。

この前提の部分の共通理解が非常に重要で、御意見いただいたように現在を見れば問題ないという見方もできなくもないが、実際はそうではないということを我々も理解した上で、地域移行することによるプラスの側面を踏まえながら検討していくことが必要だと思っている。

(2) 先進事例について（資料：事例集）

【質問意見等】

(風間委員)

事例を見ると、一部の中学校の部活動をモデルとしている形が紹介されているが、その意図が見えない。

地域クラブ活動というものが、とりあえず土日の休みの活動だけ何とかすればいいのかというと、それでは終わらない話だと思う。

子どもたちが学校で部活動としてやる意義はあったと思う。地域移行するに当たって、地域が単純に受け皿になるというよりは、子どもたちや大人も含めてスポーツや文化を地域でどう醸成して生活の中に位置づけ、生涯に渡って楽しむことができるような社会にしていかなないと、本当の意味の地域移行にはならない。

学校だけが担っていた部活が終わると、運動から離れて継続しないという今の日本型のものが変わっていかない。単純に土日の活動をどうするかということだけの事例なので、そういう話し合いだけでいいのかと考える。

地域移行の入口として、土日に何かの種目からやってみようというのはわかるが、それだと1つ移行したら、多分そこで終わってしまう。

笛吹市も中学校が5つあり、それぞれの地域に文化があって部活動も違っている。すべての地域を一度に解決する方法はないから、少しずつということはわかるが、この事例を紹介されてイメージしろと言われても、本当にそれをやればいいのかという疑問が湧いてしまう。

（笠野委員長）

今の風間委員の意見に私も共感するところで、先ほども少し話したが地域移行するポジティブな面をもう少し考えていかなければいけない。それこそがこの委員会の役割になると思う。

ただ休日に、子どもの人数が減るから、教員の負担が多いから休日に移行するというところで終わりではなくて、体育文化というものから、生涯を通してスポーツを続けるというような文化としてのスポーツを育成していくためにも、この地域移行はポジティブな面があることに気をつけながら進めていく方針を検討委員会で議論して、最終的に具体的にどの部活動をどのようにやっていくかは、その先のことだと理解しているが、事務局はどうか。

（事務局）

委員長の認識のとおり。

（笠野委員長）

ぜひ皆様からそういった意見を出していただいて、それを方針に取り入れていければと思っている。

あと1点補足で、運動部活動の資料14ページ一番下のさいたま市とさいたま市教育委員会が運営主体となっているものを見ると、活動場所は各実施中学校で会費なしとなっている。これだけ見ると生徒側からは地域移行だと言っても、今までどおり会費なしで、同じ中学校で同じ活動をしているので、あまり変化はない。

地域の指導者となって指導が専門的になるとか、教員の負担が減るとか、保険が災害共済給付でなく、スポーツ安全保険になってはいるが、ほとんど変わっていない地域移行もあるので、具体的な競技だとか学校の状況を踏まえて決めていく必要がある。

（風間委員）

アンケート結果で村松委員も指摘していた、友達と楽しみながらという回答が多くあり、アンケート前に配られたチラシにも地域クラブ活動で気軽に楽しくと、技術向上が色分けされている。子どもたちの中にはスポーツや文化活動をすごく上手になりたいという子だけではなくて、友達と仲良く楽しんでやりたいという子もいる。

この事例だとその受け皿が作られているのか見えない。やり方の紹介はされているが、その結果として、どんな成果があったということがない。例えば、地域に新しいスポーツクラブ的なものができて、同じスポーツで競技力の向上に繋がる専門性の高い指導を受けられるグループもあれば、活動は時々で楽しむことを目的とした別のグループがあるのか、そんな事例はあるのか。

（荻野アドバイザー）

昭和町が山梨県では一番進んでいて、その活動でダンスを始めようという動きがある。

学校部活動でダンス部は作ろうとしてもなかなかできなかったが、子どもたちは結構ダンスをしたいと答える子が多い。昭和町はそういう子どもの声から、地域クラブ活動の中にダンス部を作ろうとなった。新たな地域クラブ活動への移行は、先ほどの風間委員の御意見のとおりで、紹介のあった事例は残念ながら理想に近いものは出てきていない。

（事務局）

スポーツの事例集の52ページの京都府の京丹波町では、生徒の希望に応じた種目に取り組むフリースポーツ部を開催している。

その下の京都府舞鶴市は、地域スポーツクラブが受け皿となって、剣道・陸上を実施し、その中でトレーナークリニックと部活という2つのメニューを設けている。

体を動かすことの楽しさを知ることが目的とした活動として、競技力の向上を目的とする一方で、その競技を楽しみたいという縦軸のような考え方がある。また、いろんな体験をしてみたいとか、運動は苦手だけどいろいろやってみたいとか、障害を持った子どもでも色々なことの体験ができるという意味での横の広がりというような考えもある。

地域クラブ活動に移行する中で、すぐにとすることは難しいかもしれないが、そういったことも考えながら取り組んでいく必要があると思う。

もう1点、話しにでている単純に中学校の部活動を地域に移行するというだけでなく、生涯スポーツや生涯学習に繋がっていく契機となるようにしなければならないと考えている。

(笠野委員長)

風間委員の発言を踏まえて、この委員会では基本的な方針を決めていくことになるので、そういったときに例えば、地域移行を実際に進める場合には、中学校の生徒に競技志向なのか、仲間とともに楽しみ志向なのかはアンケートをして、それに合わせて地域移行するように大きな方針を決める。あるいは実際に生徒たちの考え方も含め、なおかつ生涯スポーツも進めていくので、その方向に移行できる環境を作っていくという方針を取り入れることができるので、そういう意見をたくさん出していただければと思っている。

(3) 笛吹市における学校部活動及び地域クラブ活動の推進に係る基本的な考え方について(資料:3)

【質問意見等】

(金子委員)

国の方針の理想形は欧米型の地域クラブを目指していないと思うが、休日だけに特化してまずやってみようと、最終的には平日もそうしていこうとしているのか伺いたい。

完全に地域に任せるのではなく、教育的な側面を失わないように、地域等と連携して、その部分を特に休日に何か組織的に、運営していこうという理解でいいのか。

(事務局)

市の目指すべきところではなく、国が考える部活動のあり方として、休日だけでなく平日も含めた中で、地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てるという意識のもとで、今の学校部活動を地域移行していくということになっている。

ただ、平日も含めた中で全部の部活動をいきなり地域移行していくことは、非常にハードルが高いので、まずは休日の部活動から取り組むということで、改革推進期間として令和5年度からの3年間と掲げられている。

そのような国や県の考え方を踏まえた中で、我々としてもまずは休日から地域移行に取り組み、全てを来年度から地域移行することは当然難しいので、今現在もその活動状況や地域の受け皿というか、担い手となりえる団体などの状況を見ながら、実現できるところから1つずつ増やしていくことが、一番の近道だと考えている。

(古屋委員)

スポーツ推進員なので、生涯スポーツをいつも考えている。子どものころからスポーツに親しむ場を数多く作ってあげることが、中学校の部活動につながっている。中学校の部活動は生涯の中でもほんの一部であって、その一部だけを見るよりは、もっとスポーツに親しむ環境を子どものころから作ることが、まず笛吹市としてやっていくべきことだと思う。

スポーツを楽しんで、生涯ずっとスポーツに携わって元気になる。また高齢になってもそういう場所を探して自分で続けていけるそんな状況があると思う。やはり中学校だけを考えて話をするのは少し難しい。もっと小さいころからスポーツに親しんでいった方が、部活動をする人数も増えてくるだろうし、楽しんでいる子どもとの活動の方が先生の負担も減るのではないかと考えている。

(笠野委員長)

先ほどの欧米を真似ているのかというお話のところで、私の認識としては欧米と言っても、ヨーロッパとアメリカは全く違う。また、ヨーロッパの中でも国によってかなり違いがある。

日本では、2000年かその少し前1990年代の後半あたりから総合型地域スポーツクラブというものを国が推進していった時代があって、ドイツの総合型地域スポーツクラブをモデルにして増やしていこうとして、一定の成果はもちろんあったが進まない部分もあった。単純に欧米の地域クラブを日本に持ってくればうまくいくということは、おそらく日本のスポーツ界の人たちは、反省的に理解していると思う。

資料3の下の方2番に、学校部活動の教育的意義や役割が継承されるようにと書かれている。日本の学校部活動文化は非常に特徴的なもので、そこを踏まえつついいとこ取りのような形で地域移行できればいいというのが国の考えで、全く欧米のようにとは考えていないというのが私の認識。

(金子委員)

何か1つの競技を移行していく話があったが、過日新聞に甲府市が試行を始めたという記事があった。甲府市がどういう試行を始めたのか少しわかればありがたいと思う。

(荻野アドバイザー)

金子委員が最初に質問された最終的な理想系の話だが、事務局から国の説明がありましたが、国はポンチ絵にあるような方向に進めて欲しいと言っていて、左側の学校部活動が地域と連携するのは今までもやってきている。

学校部活動で中学3年生は8月で引退する。9月から3月まで7ヵ月間も学校でスポーツ活動ができないのは異常なこと。中学3年生の一番伸び盛りにスポーツ活動ができない。せめてこのポンチ絵の右側の新たな地域クラブ活動で何とかできないかということ。

新たな地域クラブ活動は、先ほど事務局が説明した1、2、3、4の1番の中に、「創出」という言葉があるが全く新たに作ろうという感覚ではなく、今の笛吹市の子どもたちのスポーツ活動、特に小学生の頃から中学、高校と続いている笛吹市独特のスポーツ活動があると思う。部活動もスポ少も含めて、そういう良さが継承されるように新たな地域クラブ活動という学校部活動ではない、引退もない、そういう新たな地域クラブ活動を作っていくには休日からの方が作りやすいだろう。いずれ笛吹市は見本になると思っている。笛吹市の特徴は皆さんが知っていると思うので、それを生かした方がいいと思う。

今回で笛吹市へ来たのが2回目だが、本日も教育長の出席があって、縦割り行政を打破して進めていて、いずれ笛吹市は絶対形になると思っている。

甲府市の事例について、新聞に出たとおりだが、一步踏み出したばかりなので新たなことがどんどん出てきている。

説明会、研修会をどうするか、指導者をどうやって集めるか。種目がバスケ、バレー、剣道だが、甲府市のホームページに募集を3月中に2回出して1人でも多くのやってみたいとか興味があるという指導者を集めて、5月頃に研修をして、8月から月2回活動予定。

3種目で試行するので、保護者に負担感の違いが出ないように、子ども約500人程度600円の保険代と指導者報酬1,600円×3時間を約30人で回数分として471万円を予算化した。

ただ、甲府市はコーディネーターが学校教育課に所属しているが、当然スポーツ課とも一緒に進めていかなければならないので人的配置が必要となる。

(村松委員)

具体的な競技や学校という話があったが、笛吹市として子どもたちが楽しく活動して将来的なものにしていくには、何が大切なのかを検討ができれば、徐々に進んでいくのではないかと思う。

土日を最初という話があるが、各スポ少、民間クラブや総合型地域スポーツクラブ等が入れるところはどこかと、その団体が考えて意見を出してくれるのではないかと思う。

笛吹市にあった地域移行というのは、笛吹市が今どのような状況で、どのように進めていくのが一番いいのかというところを、まず考えていかなければいけない。

(笠野委員長)

今、村松委員のお話のとおり、まずどこからとか、どういうことに気をつけながら進めるとかを考えるたたき台がこの方針。今日これを決めるとかではないので、検討委員会を通して少し細かくしてもいいし、そういう意見を出して方向性を一つにしていこうというところ。

先ほど御意見が出た中学校の部活だけを考えればいいという問題ではないということ、スポーツ文化の浸透を図るということ、生徒のニーズを把握してからということとか、関

係団体にも意見を確認してからどの競技を地域移行するのかを決めていくべきだ、という
ような大きな方針を盛り込んでいくイメージだと思う。

(4) 地域クラブ活動の整備に向けた取組の方向性の検討について（資料：4）

【質問意見等】

（笠野委員長）

山梨県のガイドラインの手引き37ページの上の図を見ると、休日部活動の地域移行改革
推進期間における市町村の地域クラブ活動体制整備ロードマップがある。ステップ01協議
会等の設置運営の下に、コーディネーターの人選とか、検討会や準備会の設置開催と書か
れていて、我々の検討委員会はこの協議会等の設置に向けた方針を決めていく段階。

その中で、どのように大きな方針を作っていくのかということで、山梨県のガイドライ
ンの目次が書いてある1ページに、新たな地域クラブ活動から順に、適切な運営や効率的
効果的な活動の推進、参加者、運営団体実施主体という項目が並んでいるが、ここを参考
にして笛吹市の現状に合った内容の文言に変えていって、この資料3と資料4のような形で
方向性を作成するのはいかがでしょうかという流れ。

具体的な文言について、今日これを決めることはできないと思うので、持ち帰ってい
だいて、どういう文言を入れればいいか、この山梨県のガイドラインに書かれている文言
は笛吹市に当てはまらないから、こんなことは書かなくていいとか、反対にやはり書かな
きゃいけないとかを詳細に検討していければというところ。

笛吹市の予算にも方針を反映できると思うので、この検討委員会でコーディネーターは
有給でなければ駄目だとか、予算要求をする根拠資料にもなりうると思う。そういう流れ
でこれからこの資料3や4を具体的に検討していくという認識でいる。

（風間委員）

スポ少で子どもたちに関わっているが実際の中学校部活動の実態は、それほど肌で感
じていない。資料4や2番目の現状のところに、部活動に所属している生徒がいる一方で所
属していない生徒もいて、部活動以外で様々な活動ということが書いてあるが、これがもし
現状だとしたら、具体的にどういう実情なのか、なぜそれが起こっているのかを分析把握
する必要がある。また、先生方や部活の顧問がそのことについてどんな考えを持っている
のかも知る必要がある。

小学校からスポ少でスポーツに関わっていた子どもたちが、中学校に行って部活動にど
の程度入っているのか何となくわかっている。サッカーの場合は地域クラブがあるので、
中学校に行きながら地域クラブへ行っている子がいることは承知しているが、現状をうま
く捕まえられていないと感じている。

現状をまず共有しないとしない。例えば村松委員の教えている体操の子たちは、幼児
のときからずっと体操をやってきて中学校に行ってどうなって、その後どうしているのか

とか、それぞれの種目で感じていることがバラバラになってしまうと、どんなふうに取り組みを進めていくのかというところが、ずれてしまう気がする。全部完璧にというわけにはいかないと思うが、何かそういう資料が欲しいと思った。

(笠野委員長)

資料に関して、事務局で具体的に実際の部員数だとか詰めていただければと思うが、学校にお勤めの委員の方が出席されているので、少し現状というか、お考えをお聞かせいただければと思う。

(猪股副委員長)

石和中学校のケースで、生徒の自主的主体的な活動ということで部活動は推進されているので、最近はどここの学校も希望入部制という制度をとっている。学校にやりたい部があれば入って活動を行うけれども、なければやらないか、別の組織で希望する活動があればそちらに行くという状況。

石和中は500人生徒がいて、具体的な数字が出てこないが300人から350人は部活に入っている。活動も様々で、非常に積極的に活動している部もあれば、平日だけという部もあったり、週に1回2回という部もあったりと、子どもたちがそれを選択している。

地域クラブへの移行を、どこをイメージしてやっていくか大事なことだと思っている。生涯スポーツにまで広げていくのか、学校の部活動をどう地域移行していくのかに絞り込んで話をしていくのか、話が大きくなりすぎてしまって論点が絞れていないと感じている。

(清水委員)

春日居中も石和中と同じように、令和5年度から希望入部制にした。本年度、各学年で10人ちょっとずつは、どの部にも所属していない状況。その中で何人かは学校外でサッカーや陸上をやっている。

この委員会で検討していかなければならないと思うが、生徒にやりたいことを聞いてから全て網羅してから進めるのか、それとも本当に限定して、学校で競技ができない種目からやっていくのか。あるいは常設部の中で、指導者が集めやすいところからまずやっていくのか。その後、進める中で問題点などを洗い出しながら、国から指示が出ている期間の中で全ての子どもたちに広げていくのかというところを整理して、笛吹市としてどう進めていくかということが必要だと思う。

いきなり全体に広げていくのは、すごく大変になるだろうとも感じている。

(石井委員)

本市は、毎年県の小中体連に運動部員数を報告していて、69%ぐらいが運動部に所属している。文化部は把握していない。

運動部に入部している生徒の割合は、実は最近はあまり変わっていない。希望入部制だが、運動部は比較的多くの生徒が部活動に関わっていると思う。

1つの部に限らず地域クラブや他の部に所属して、たくさん活動している生徒もいるので、そう希望する生徒たちが活動できる場を提供していくことができるのはいい方向だと思う。

ただ、一度には大変だと思う。指導者が足りない部はたくさん市内にあるので、地域連携からスタートするのも個人的にはいいのではないかと考えている。

(笠野委員長)

前回の資料の3-3に部活動指導員の数や生徒数が全部書かれている。確認いただければと思う。

あくまでもこの委員会は委員会の名前にあるように笛吹市中学校部活動地域移行検討委員会なので、中学校部活動の地域移行をどうするかに絞るべきだと思うが、その上で生涯スポーツなどの視点を頭に入れて考えなければいけないというところはある。

清水委員からあったモデル競技については、いくつか競技を決めて進めていくとか、その競技を決めることは次の協議会に任せて、協議会で具体的に指導者が少ない競技を選定して進めていく形で、この委員会を終わらせるとか、そこまでにとどめておくこともできると思う。その辺も含めて、次回以降にもう少し詳細に方向性を決めていければと考えている。

委員の皆さんが悩ましいのは、この委員会のゴールがどこまで決めることなのかということだと思う。最終的には、競技それぞれ実態が違うので、競技一つ一つに合わせて調査して、運営体制が違うやり方で進めていかなければならないと思うので、そこまでをこの検討委員会で決めるのは難しい、おそらくできないと思う。

委員会のゴールはまだ明確になっていないので、そこも次回以降に明確にしつつ、どういう形で方針を出すかというところ。今日の資料3と資料4のような形で方向性をまとめていければいいのではないかと考える。

(5) その他

【質問意見等】

(須田委員)

人材バンクが始まるということだが、早いもの勝ちでいい指導者がスカウトされてしまう。この事業の実施が遅れるとバンクに残っている人材も減っていくと考えると、早い取り組みが必要ではないのかとも考えるが、市としての考えを伺いたい。

(事務局)

人材バンクということのみで考えれば、人材を早く獲得するという点でより早い取り組みが必要かと思う。

ただ、そこにとらわれすぎてもいけないという思いもある。やはり市として、地域クラブ活動のあり方やどういう方向性で進めていくのかを決めた上で、個別の競技の地域クラブ活動の移行に入っていかないと、途中で方向性がわからなくなってしまうということもあると思う。多少遠回りになる部分もあるかもしれないが、まずはこの委員会で方向性をしっかりと出していきたい。

4 その他

(1) 第3回検討委員会 日程は事務局から後日連絡

5 閉会

午後9時15分 閉会